

# 図書館だより no.259



2026(令和8)年5月9日 編集・発行 福島県立図書館  
〒960-8003 福島市森合字西養山1番地 Tel 024-535-3218 <https://www.library.fcs.ed.jp/>

## 企画展示

## 世代を超えて愛される絵本シリーズ

### ”「こどものとも」の世界 創刊70周年”を開催中です



福音館書店の月刊絵本「こどものとも」は、今年創刊70周年を迎えました。これにちなんで、『ぐりとぐら』など著名な作品を中心に、復刻版「こどものとも」を展示しています。

懐かしい作品に出会えるかもしれません。ぜひご覧ください。(一部作品は貸出可)

期間：4月3日(金)から6月3日(水)  
場所：企画展示コーナー



## ミニ展示

### 花と緑に囲まれて

5月9日(土)から6月3日(水) 時事展示コーナー

### ふくしまによろこそ！県内を満喫する本

5月9日(土)から7月1日(水) 地域展示コーナー

### からだもこころも健やかに

5月9日(土)から7月1日(水) 雑誌展示コーナー

### 花の彩り

4月3日(金)から6月3日(水) 軽読書コーナー



## こどものへや

### 展示 みんなでおでかけ

5月9日(土)から6月3日(水) 絵本コーナー

### 展示 魔法使い・ドラゴン・妖精の本

5月9日(土)から7月1日(水) こどものへや入口横

### ちいさなおはなしかい

日時：5月29日(金)・6月26日(金) 11時から

0歳から3歳のお子さんと保護者の方を対象とした、絵本の読み聞かせやわらべうたを楽しむおはなしかいです(15分程度)。申込不要・参加無料です。



## 国立国会図書館から **お礼状** をいただきました

当館では、調査・研究に必要な資料の紹介や情報を探すためのお手伝いとして「レファレンスサービス(調べもの相談)」を行っています。回答した事例の一部は、個人情報が出ないよう編集し、国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」に登録しています。

この度、昨年1年間に「レファレンス協同データベース」へ多くのレファレンス事例を登録したことにより、国立国会図書館からお礼状をいただきました。

今後も質の高いレファレンスサービスの提供に努めてまいります。

### ●レファレンス協同データベースとは？

国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築しているデータベース。身近な質問から調査研究に関する専門的なものまで、各館から登録された調べものの事例などをインターネット上で公開し、誰でも見ることができるようになっています。

当館事例集



# 新着案内

各分野の担当者が選んだ、おすすめの最新資料を紹介します。

## 人文・社会・自然

『英米文学のわからない言葉』

金原 瑞人/著 左右社 2025.12 930.4/かミ25Z

海外の詩や小説に出てくる、日本ではあまりなじみのないものたち。レンズ豆、ミンスパイ、マントルピース、フランス窓…など、皆さんはどんなものかイメージできますか。本書では、英米文学で目にするけれど、実はあまりよく知られていないと思われる言葉を取り上げ、その意味を紹介しています。英米文学を読むことが、より面白くなる一冊です。

『歩いて学ぶ都市経済学』 中島 賢太郎/著

日本評論社 2025.10 332.9/ナ25X

本書は経済学の一分野である都市経済学を、一般の読者にも分かりやすく紹介する本です。築地市場における店舗の場所決めから専門店が集積する効果を確認する、町田市（東京都）の特徴的な立地が与える影響など、日本の都市における例を題材にして、都市における様々な現象の背後にある人びとや企業の行動を分析しています。都市や地域のことを考えたい方におすすめの一冊です。

『痛みとは何か 歴史・文化・医学の視点からその本質を探る』 ロブ・ボディス/著

大修館書店 2025.12 491.378/和25Z

私たちはからだの苦痛を少しでも和らげ、できる限り取り除こうと医学の知識や技術を進歩させてきました。そしてまた、「心が折れる」「気持ちが傷ついた」など形のない痛みがあることも知っています。人類にとって痛みとは何か……文化や芸術面にも考察を広げ、その答えを探します。

## 児童・児童図書研究

『奇妙でフシギな話ばかり』

ブルース・コウヴィル/作 金原 瑞人/訳 橋 賢亀/絵  
岩波書店 2025.11 933/コ7

タイトル通り、奇妙で不思議な話ばかり収録された、アメリカの短編小説集です。登場するのは、天使にユニコーン、吸血鬼に狼男、エルフなど。シリアスな作品が多めですがコミカルなものもあり、例えば「ダフィーのジャケット」は、忘れ物が多い少年・ダフィーが忘れ物をしなくなった顛末を、ある山での恐怖体験とともに描いています。大人のいない山小屋で過ごす夜、不気味な山男が近づいてきますが、実はそれは……というお話で、迫りくる恐怖とキュートな結末が必見です。

それぞれ10分ほどで読める短いお話ばかりですが、1編ごとにがらりと雰囲気が変わり、小説を読み慣れた人でも新鮮に感じる作品群だと思います。中高生くらいから、大人まで楽しめます。

## 雑誌・新聞

今年度新しく購読を開始した3雑誌を紹介します。

『エキスパートナース』 照林社 Z492.9/E1 2026.5  
(第42巻第5号, 通巻605号, 2026.5) ~

看護師に必要な知識や現場で役立つトピックを網羅した看護専門誌。現役の看護師の方や看護師を目指す方におすすめです。

『きょうの料理』 NHK出版 Z596/K1 2026.5  
(第70巻第2号, 2026.5月号) ~

1958年に刊行が開始され、同名の料理番組とともに今も変わらず毎日の食卓のため、料理を作る喜びと旬の食材を使った家庭料理の提案を伝え続けている雑誌です。

『食べもの文化』 芽ばえ社 Z498.5/T2 2026.5  
(No.628, 2026年5月号) ~

1976年刊行以来、子どもたちの健康と食の安全について考え、乳幼児の健全な発達をめざす専門情報誌。5月号の特集は「離乳食」です。

## 地域

『いのちの聲 につぼん列島』 鈴木 一雄/著  
風景写真出版 2025.8 LA748/S5/6

北は北海道から南は沖縄まで、まさに列島全体を撮影地にして撮り続けられた生きものたちの姿。15年の歳月をかけて撮影された写真集『いのちの聲』は、福島県塙町生まれの自然写真家による労作です。ページを進めると共に四季が巡っていく本作に掲載されているのは、どれも撮影者の存在を忘れさせるような圧巻の写真。タイトルに込められたテーマを作品ひとつひとつが語っています。

『福島県浪江町/原発被災を越えて新たな「まち」をつくる』  
関 満博/著 新評論 2025.11 LS369.31/S10/2

東日本大震災および福島第一原子力発電所事故から2026年3月で15年が経過するのを前に、本書は出版されました。

被災前双葉郡の経済都市だった浪江町は、現在も町域の多くが「帰還困難区域」となっています。本書では、被災後の復興の歩みとして、避難先で再開した企業や帰還後再開に踏み出した企業など、町の事業所の事例が多数紹介されています。土地の歴史をふまえつつ、町の産業に注目し復興の現状とその後を見据える一冊です。

